

平成29～33年度 石油製品需要見通し(案)

液化石油ガス編

平成29年4月3日

石油製品 需要想定検討会
液化石油ガスワーキンググループ

平成29～33年度 石油製品需要見通し(液化石油ガス総括表)

年度 部門	実績		実績見込	見通し					年率	全体	構成比		
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	H28/ H33	H28/ H33	28年度	33年度	
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021			2016	2021	
家庭業務用	6,535	6,297	6,258	5,994	5,970	5,923	5,813	5,757	▲1.7%	▲8.0%	44.9%	40.3%	
		▲3.6%	▲0.6%	▲4.2%	▲0.4%	▲0.8%	▲1.9%	▲1.0%					
工業用	2,883	3,057	3,062	3,090	3,191	3,211	3,238	3,272	+1.3%	+6.9%	22.0%	22.9%	
		+0.7%	+0.2%	+0.9%	+3.3%	+0.6%	+0.8%	+1.1%					
都市ガス用	1,167	964	903	1,054	1,239	1,331	1,429	1,483	+10.4%	+64.2%	6.5%	10.4%	
		▲17.4%	▲6.3%	+16.7%	+17.6%	+7.4%	+7.4%	+3.8%					
自動車用	1,110	1,045	1,013	988	965	944	925	908	▲2.2%	▲10.4%	7.3%	6.4%	
		▲5.9%	▲3.1%	▲2.5%	▲2.3%	▲2.2%	▲2.0%	▲1.8%					
化学原料用	3,038	2,698	2,689	2,893	2,950	2,934	2,907	2,878	+1.4%	+7.0%	19.3%	20.1%	
		▲11.2%	▲0.3%	+7.6%	+2.0%	▲0.5%	▲0.9%	▲1.0%					
需要合計 (電力用除く)	14,773	14,061	13,925	14,019	14,315	14,343	14,312	14,298	+0.5%	+2.7%	100.0%	100.0%	
		▲4.6%	▲1.0%	+0.7%	+2.1%	+0.2%	▲0.2%	▲0.1%					
参考	電力用	300	168	283	—	—	—	—	—	—	—	2.0%	—
	需要合計 (電力用込み)	15,033	14,229	14,208	—	—	—	—	—	—	—	102.0%	—
		▲5.3%	▲0.1%										

(注1) 上段の数字は液化石油ガス内需量

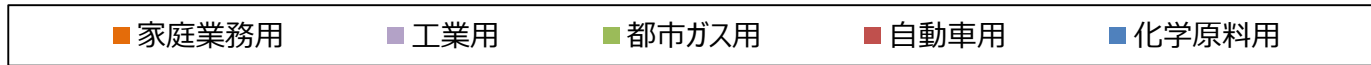
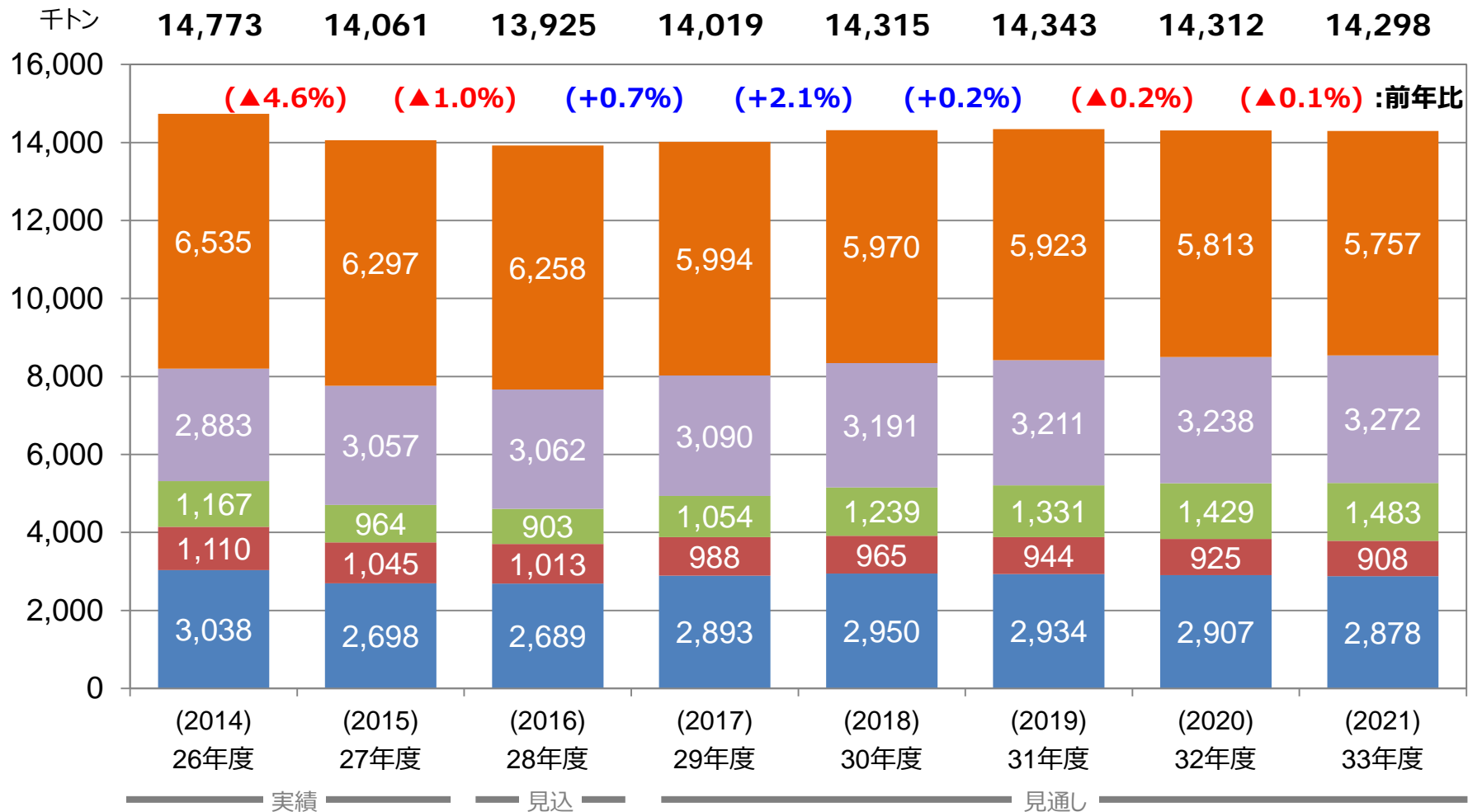
単位：千トン

(注2) 下段の数字は前年度比

単位：%

平成29～33年度 石油製品需要見通し(液化石油ガス全体)

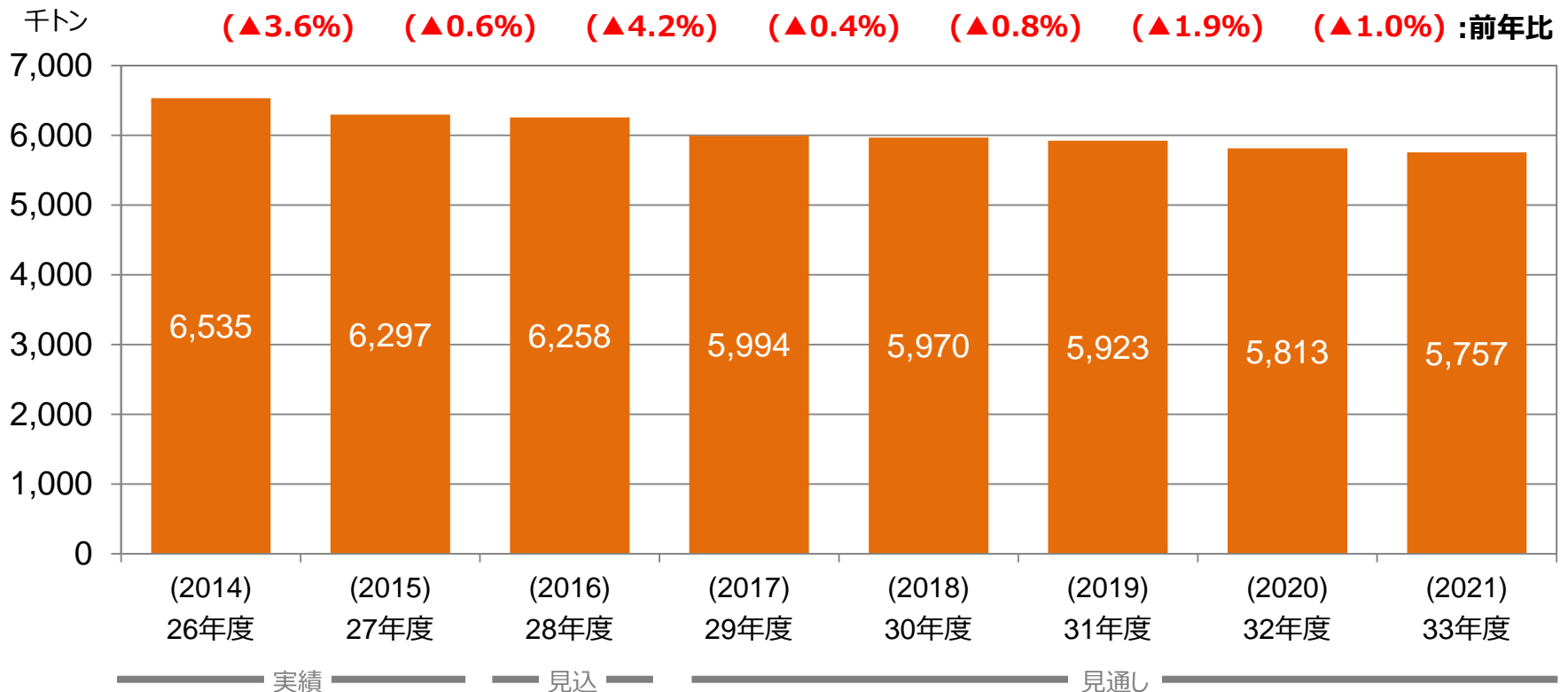
- 平成29年度は、液化石油ガス全体で約1,402万トンとなり、**前年度比+0.7%の増加**の見通し。
- 平成28～33年度を総じてみれば、**年平均で+0.5%、全体で+2.7%の増加**の見通し。



家庭業務用

- ① LPガス器具普及率を加味した「LPガス世帯 家庭用需要」+
- ② 出荷台数や馬力数等から算出した「GHP(ガスヒートポンプ)需要」+
- ③ 外食産業を中心とした「業務用需要」に基づき想定

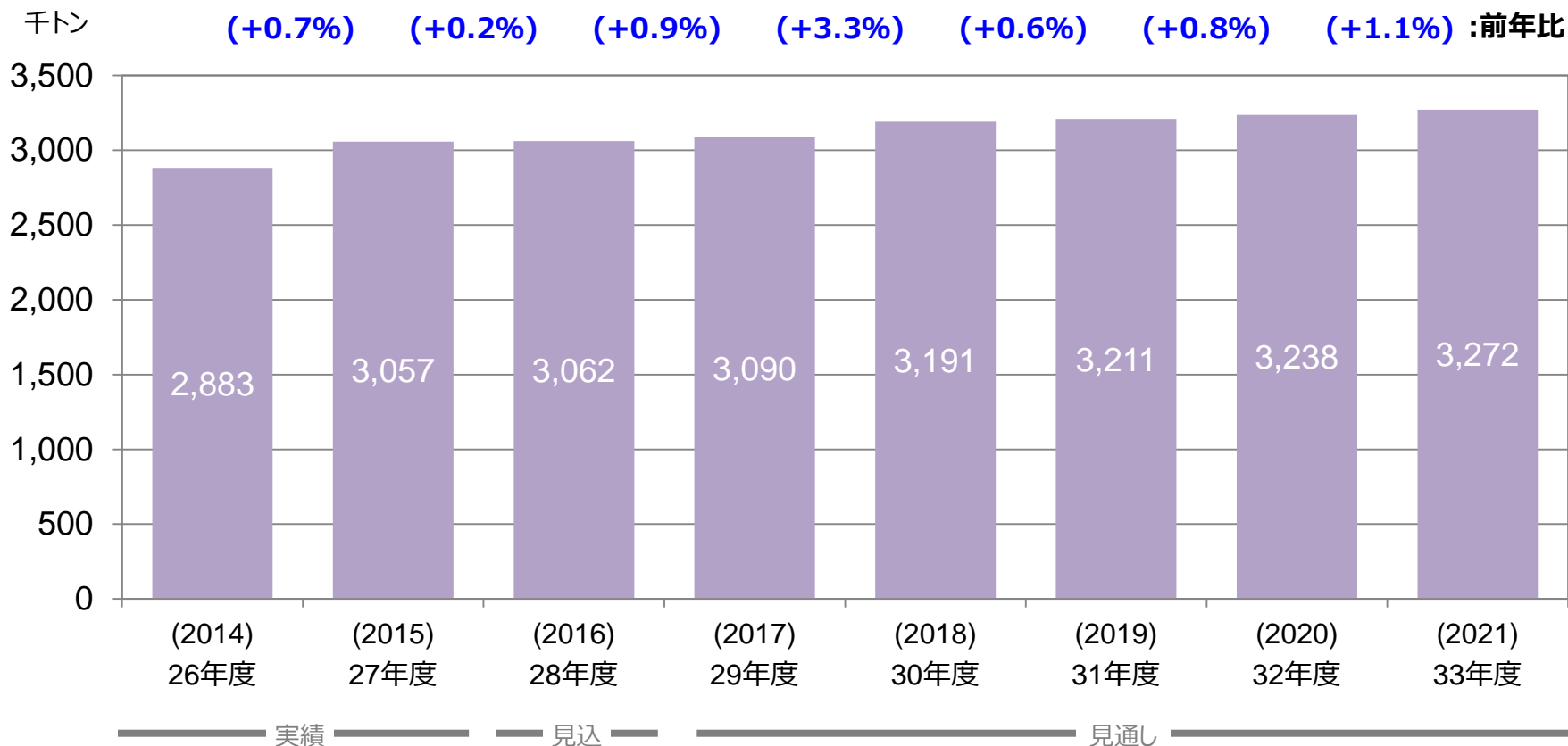
- 平成29年度は599万トンとなり、前年度比▲4.2%と減少の見通し。
- 平成28～33年度を総じてみれば、年平均で▲1.7%、全体で▲8.0%の減少の見通し。
- 家庭部門では、LPガスを利用する世帯数の減少の影響に加え、風呂釜・給湯器等各種機器の高効率化が進展すること等を背景として、需要が減少する見込み。
- GHPは、大型化が進むとともに台数は減少傾向となる。同時にGHPの省エネ・高効率化が進展し、LPガス消費効率改善されてゆくことにより需要も減少する見込み。
- 業務用需要は、主要な需要家である外食産業の事業者数が横ばいで推移すると想定、需要もほぼ横ばいの見込み。



工業用

- ① 鉱工業生産指数及び燃料転換を加味した「一般工業用需要」+
- ② 納入を行う元売会社へのヒアリングによる「大口鉄鋼用需要」に基づき想定

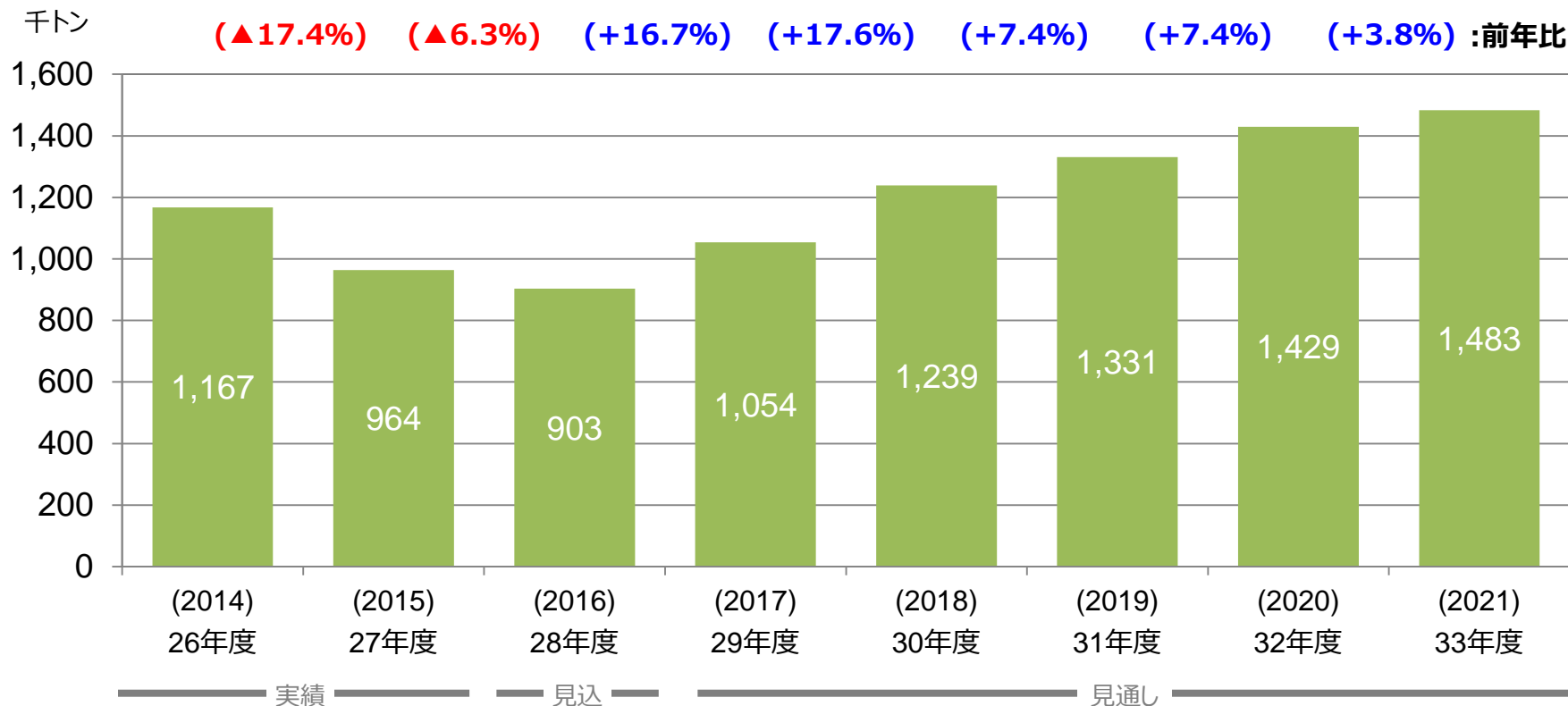
- 平成29年度は309万トンとなり、**前年度比+0.9%と増加**の見通し。
- 平成28～33年度を総じてみれば、**年平均で+1.3%、全体で+6.9%と増加**の見通し。
- 一般工業用については、経済動向が堅調に推移するとの想定に基づき、鉱工業生産指数に連動してLPガス需要が緩やかに増加するほか、A重油からの燃料転換によりLPガス利用量が一定割合増加することを見込み、全体として需要が増加する見通し。
- 大口鉄鋼用については、製鉄過程での補助的な用途で用いられ、ほぼ横ばいで推移する見通し。



都市ガス用

「一般ガス需給計画」を踏まえた、低熱量LNGの輸入量増加を加味して想定

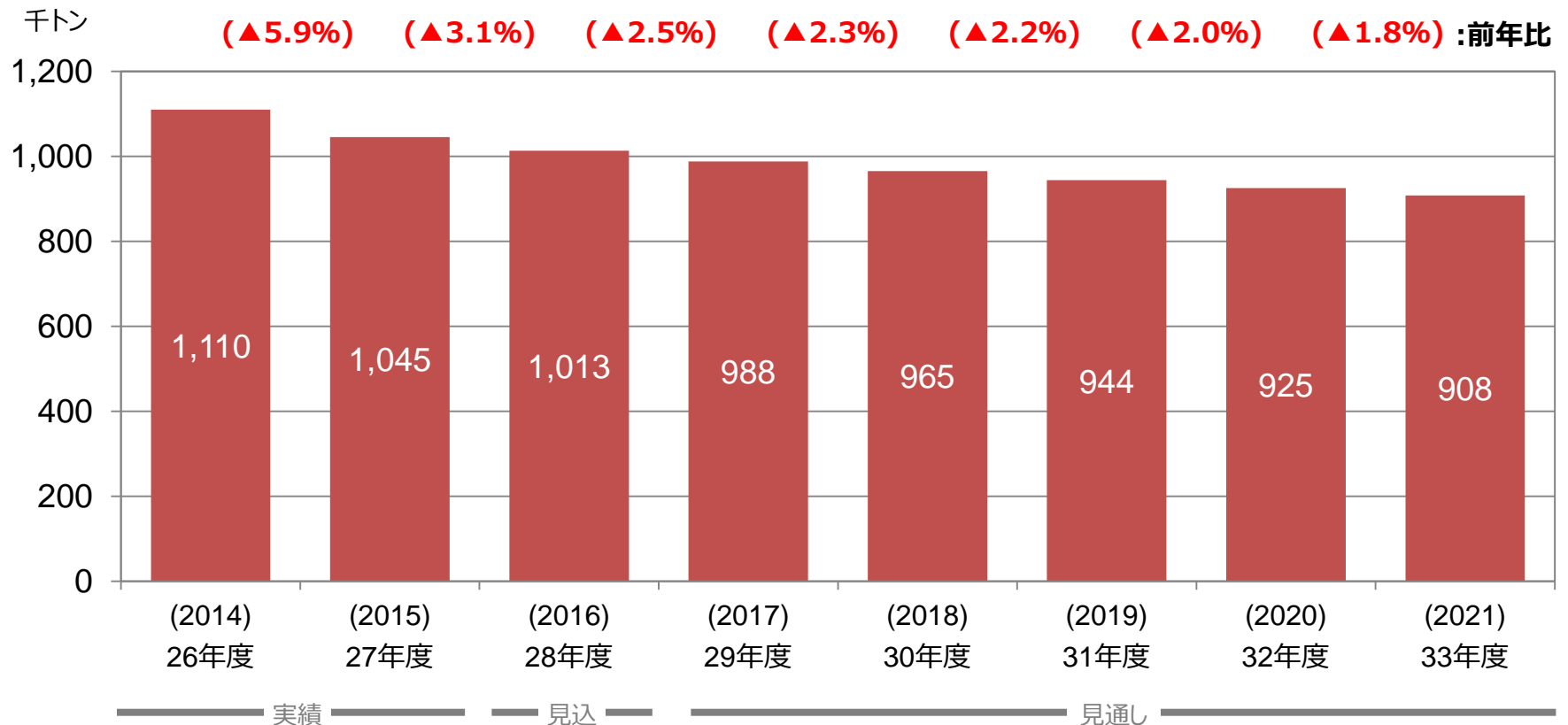
- 平成29年度は105万トンとなり、**前年度比+16.7%と増加**の見通し。
 - 平成28～33年度を総じてみれば、**年平均で+10.4%、全体で+64.2%と増加**の見通し。
 - 都市ガスの主原料はLNGであるが、LNGのみでは都市ガスの熱量規格を満たすことができないため、LNGに一定割合のLPガスが混合されるものとして需要量を推計。
 - 低熱量LNG輸入量の増加*が予測されることから、都市ガス用途におけるLPガスの増熱需要が増加することを想定。増熱用の需要量については、現状の都市ガスの熱量規格を基準に計算。
- *平成29年度以降、米国のシェール由来LNGの輸入が本格化されると想定。また、これらはほぼ低熱量のメタン・エタン留分で組成されているため、増熱用LPガスの需要が増加する見通し。



自動車用

「LPガス自動車(タクシー・貨物車等)の台数」×「燃料消費量」
に基づき想定

- 平成29年度は99万トンとなり、前年度比▲2.5%と減少の見通し。
- 平成28～33年度を総じてみれば、年平均で▲2.2%、全体で▲10.4%と減少の見通し。
- タクシー・貨物車等を中心としたLPガス自動車台数は、年々緩やかにはなるが、継続的に減少することを想定。
- タクシーは、台数が適正水準に近づくことにより、減少率が鈍化するが、JAPAN-TAXI等の燃費効率に優れる車種の市場投入により、車齢の高い車両から徐々に置き換わることが想定され、車両の燃費改善は継続的に進行していく見込み。



化学原料用

「エチレン用原料」+「プロピレン用原料」+「無水マレイン酸用原料」+「その他」に基づき想定

- 平成29年度は289万トンとなり、**前年度比+7.6%**と増加の見通し。
- 平成28～33年度を総じてみれば、**年平均で+1.4%**、**全体で+7.0%**と増加の見通し。
- エチレン用原料として利用されるLPガスについては、国内のエチレン生産量自体は、微減する想定であるものの、エチレン用原料として利用されるナフサに比して、利用割合が増加傾向で推移することが見込まれるため、需要量は増加傾向で推移する見通し。
- プロピレン用原料として利用されるLPガスについては、石油の二次装置において生産されるLPガス（FCCプロピレン）が利用されるが、生産されるLPガスは、石油製品の需要減に応じて減少することが見込まれることから、需要量も微減傾向で推移する見通し。
- 全体として平成29,30年度は、エチレン用原料の増により需要は増加するものの、平成31年度以降は、プロピレン用原料の減により、需要は微減傾向で推移する見通し。

